



おすすめの日本の昔話



さるかにがっせん(よみきかせ日本昔話)【講談社】

(文)石崎洋司 (絵)やぎたみこ

さるにだまされ殺されてしまったかきの仇討ちに、うす、はち、どんぐり、うしのくそが立ち上がります。

「さるかにがっせん」はたくさんの出版社から出ていますが、この本は絵が見やすく、文も長すぎず、ラストにさるが「ごめんなさい。」とあやまって終わるのが良いと思います。

へっこきあねさがよめにきて【ポプラ社】

(文)大川悦生 (絵)太田大八

やってきた働き者のおよめさんには実はとんでもない秘密が……。それは、人を吹き飛ばすほどの大きなおならをすること！

あまりの吹き飛ばしぶりに子どもたちが喜ぶこと請け合いです！



あたまがいけ(こどものとも)【福音館書店】

(再話)日野十成 (絵)斎藤隆夫

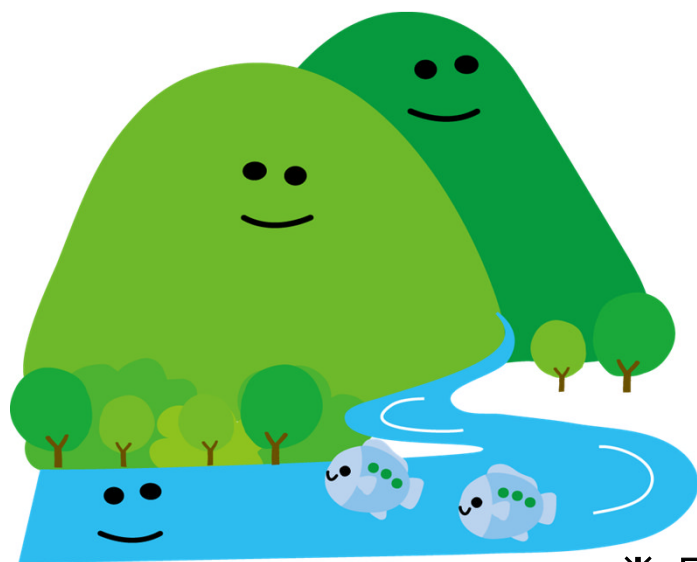
口を開けて柿の実を見上げているのは、ものぐさもくべえ。でもな、うまそうな実は「べっちゃん」と頭の上でつぶれた。そのままにしていたら、種から芽が出て……。

落語「あたまやま」原話。

わらしべちょうじゃ(よみきかせ日本昔話)【講談社】

(文)石崎洋司 (絵)西村敏雄

働いても働いても貧しい若者がいました。観音様にお参りすると「さいしょにひろったものをもって、たびにでよ」とのお告げ。最初につかんだのは「わら」でした。ところがつぎつぎと交換して……。ついには長者になるというお話です。



びんぼうがみとふくのかみ【ポプラ社】

(作)大川悦生 (絵)長谷川知子

貧乏だけど良く働く、若いとうさんとかあさんがいました。「皆ではたらはたらけば貧乏もないもんだ」と何年も働き、ある年のおおみそかの夜、天井からごそごと音がして……。あらわれたのは何とびんぼうがみ！「おなごりおいしいがおいとまします」と告げる……。愉快な楽しいお話です。

ねずみのすもう【ポプラ社】

(文)大川悦生 (絵)梅田俊作

貧乏なおじいさんの家のやせねずみは、太ったねずみと相撲をとって負けてばかり。それを見て、かわいそうに思ったおじいさんは……？

岩手県遠野地方に伝わる民話 がもとになっています。

※ 日本の昔話はいくつかの出版社から出ています。本によっては結末のちがうものがあります。